

在宅介護実態調査

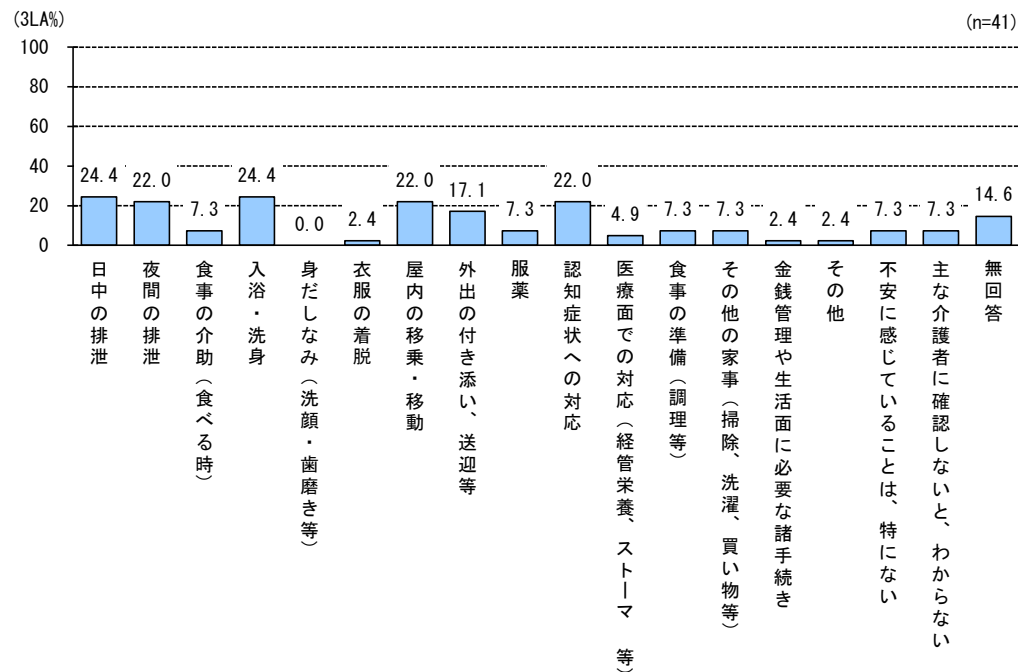
主な介護者の属性 (P5-6)

- 主な介護者について、「子」が56.1%で最も多く、次いで「配偶者」が26.8%、「子の配偶者」が7.3%となっています。
- 主な介護者の年齢について、「50歳代」が46.3%で最も多く、次いで「70歳代」「80歳以上」がそれぞれ17.1%となっています。

現在の介護について (P4、8-9)

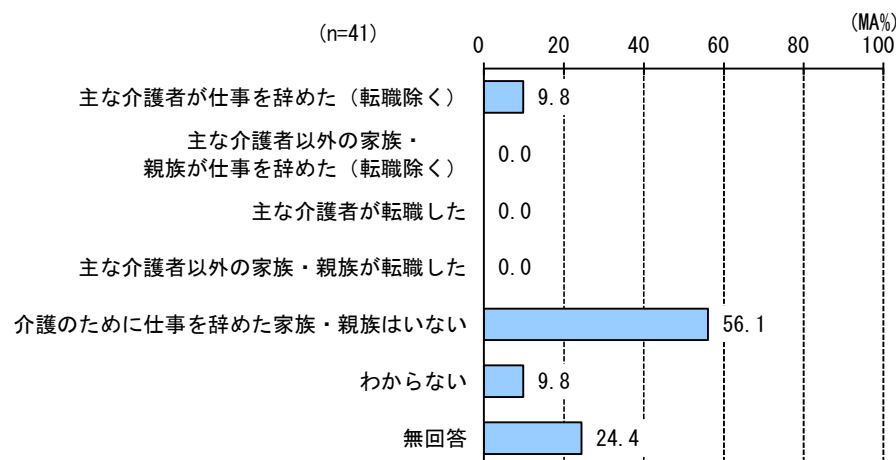
「排泄」「入浴・洗身」「認知症」が在宅生活継続の限界点を引き下げている可能性がある。

- 介護の頻度について、「週3～4日ある」「ほぼ毎日ある」を合わせた“週3日以上ある”が50.9%となっています。
- 現在の生活を継続していくにあたって不安に感じる介護について、「日中の排泄」「入浴・洗身」が24.4%で最も多く、次いで「夜間の排泄」「屋内の移乗・移動」「認知症状への対応」が22.0%となっています。



在宅介護実態調査

- 介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が56.1%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が9.8%となっています。



- 主な介護者の勤務形態について、「フルタイムで働いている（26.8%）」「パートタイムで働いている（22.0%）」を合わせた“働いている”が48.8%となっています。

働き方の調整（P10）

主な介護者の約3割が働き方について“何らかの調整を行っている”。

- 働き方の調整について、「特に行っていない」が60.0%で最も多く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」がそれぞれ15.0%となっています。
- 全体から「特に行っていない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」、無回答を除いた“何らかの調整を行っている”が35.0%となっています。

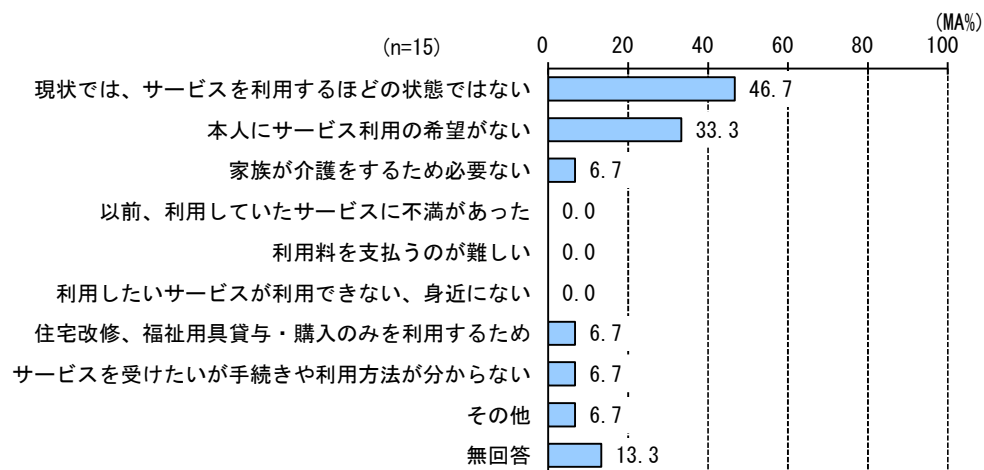
勤め先からの必要な支援（P11）

- 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援について、「特にない」が30.0%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が20.0%となっています。

介護保険サービスの利用状況、利用していない理由（P13）

約 2 割が介護保険サービスを利用しておらず、その内およそ半数が「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」。

- 介護保険サービスの利用状況 「利用している」 72.9%、「利用していない」 25.4%
- 介護保険サービスを利用していない理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 46.7%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 33.3%となっています。



在宅介護実態調査

介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況（P14）

介護保険外のサービスを利用している人は約 3 割。掃除・洗濯での利用が多い

- 利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについて、「利用していない」が 52.5%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が 11.9%となっています。
- 全体から「利用していない」、無回答を除いた“利用している”が 30.6%となっています。

施設等への入所・入居の検討状況（P16）

約 8 割が在宅生活の継続意向あり。

- 施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が 78.0%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が 13.6%となっています。
- 「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」を合わせた“入所・入居可能性あり”が 17.0%となっています。